

Regular Concert  
**JOETSU**  
SYMPHONY  
ORCHESTRA

Jean Sibelius

Johann Strauss

上越  
交響楽団

第75回定期演奏会

指揮／長谷川 正規

コンサートマスター／三溝 健一

J.シュトラウスⅡ世／喜歌劇「こうもり」序曲

J.シベリウス／カレリア組曲

J.シベリウス／アンダンテ・フェスティーヴォ

J.シベリウス／交響曲第5番

2015 **9.13** [日] 14:00 開演

上越文化会館大ホール

※未就学児をお連れのお客様は、他のお客様のご迷惑にならないようご配慮願います。

主催／上越交響楽団

後援／上越市教育委員会・妙高市教育委員会

本日は私達の演奏会にお越し下さいまして、誠にありがとうございます。

本日演奏しますシベリウスの交響曲第5番はあまり聴く機会がないかも知れませんが、不思議な魅力を持っている曲です。普通に構成されているような形式ではありませんから、余計になじまないのでしょうか。

心を長ーくして、広ーくして、暗ーい高原で、仰向けになって、吸い込まれるような満天の星を眺めているつもりになって聞いたら理解できるかも知れません。

曲の始まりのあたりは不気味ささえ感じますが、じきに心地よさを感じ、次第に大きな宇宙に吸い込まれるような気分になるかも知れません。最後は十分に広がりを持って終わります。北欧のシベリウスが、広大な自然と宇宙を感じて作曲したのでしょうか。

## 指揮者

Hasegawa Masanori 長谷川正規

東京藝術大学音楽学部器楽科にてテューバを専攻。学部在学中に安宅賞を受賞。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。

ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢と R.V. ウィリアムスのテューバ協奏曲を共演。近年は指揮の機会も多く、上越交響楽団、新潟市・北区フィルハーモニー管弦楽団、上越市民吹奏楽団等で活動を行う。上越文化会館での創作音楽劇「くびき野の歌」、北区オリジナルミュージカル「春のホテル」、南区音楽祭プロジェクト「ヘンゼルとグレーテル」等の指揮も務める。現在、上越教育大学大学院学校教育学研究科専任講師。



## コンサートマスター

Samizo Ken-ichi 三溝健一

松本市出身。4歳よりヴァイオリンを始め、片岡世界、正岡紘子、山岡耕筈、天満敦子の各氏にヴァイオリンを、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。肥沼きよ、竹内邦光、丸山嘉夫、松本紀久雄、汐澤安彦の各氏にピアノ・ソルフェージュ・音楽学・指揮法を師事。大学在学中よりソロ・室内楽・オーケストラ・オペラ等、幅広く演奏活動を行う。殊に「ENSEMBLE“藝弦”（弦楽合奏）」「室内楽“EAU”（ピアノアンサンブル）」を中心に研鑽を積み現在は「音泉室内合奏団」を主軸に活動を展開、編曲も多数手掛けている。また、関東信越各地の市民・学生オーケストラと室内楽にて演奏指導と活動の発展に尽力、また初心者から専門課程の学生及び演奏家の個人レッスンなど広く後進の育成にもあたる。足立シティオーケストラ・松本交響楽団・上越交響楽団・柏崎フィルハーモニー管弦楽団、他／常任・客演コンサートマスター、副指揮者（足立・松本）。音泉室内合奏団／ソロ・コンサートマスター、音楽監督。池袋音楽学院 講師。Gruppo Violini 主任講師。Musica Rospo 主幹。



# プログラム&曲目解説

## ■ヨハン・シュトラウスⅡ世／喜歌劇「こうもり」序曲

19世紀にオーストリア・ハプスブルク帝国が中欧を支配していたころ、首都ウィーンの人口は急激に増加しました。その中には異民族ボヘミア人、モラヴィア人、ハンガリー人やセルビア人などが多く混在していたことから、市民はボヘミアのポルカ、ポーランドのマズルカやハンガリーのチャールダーシュなどの異民族舞曲をウィンナ・ワルツと同様に愛好し、それらすべてを同時に楽しめるウィンナ・オペレッタに人気が集中しました。シュトラウスもオペレッタの創作に注力し、その第3作「こうもり」によって不滅の金字塔を打ち建てました。

ある仮装舞踏会の帰り、アイゼンシュタインは酔っぼらった友人ファルケ博士を「こうもり姿」のまま道ばたに置き去りにし

ました。それ以来ファルケ博士は人々から「こうもり」のニックネームで呼ばれるようになってしまったことから、ファルケ博士がアイゼンシュタインへ仕返しを考えるという陽気な物語です。

序曲はオペレッタの美しい旋律を束ねたもので、シャンパンの栓を抜く音を描写した3つの和音に始まり、第1幕でアイゼンシュタインの妻ロザリンドによって歌われる悲しげなメロディーや、第2幕フィナーレのこうもりのワルツなどが次々に現れます。なお、物語が大晦日の晩の出来事を題材にしていることから、ウィーンをはじめドイツ語圏の国々の歌劇場では大晦日恒例の出し物となっています。

## ■シベリウス／カレリア組曲 作品11

1892年に最初の交響曲「クレルヴォ」の初演で成功をおさめたシベリウスは、名家の令嬢アイノ・ヤルネフェルトと結婚し、新婚旅行にフィンランド南東部のカレリア地方を訪れました。そしてこの地方伝承の行事や民謡に接し、創作のインスピレーションを得ました。折しもカレリア地方の首都ヴィープリ学生協会からの依頼もあり、野外歴史劇のための付随音楽を作曲しました。この劇はカレリア地方の13～19世紀の歴史を題材に7景の劇として仕立てられたものの、劇自体はあまり良い評価が得られませんでした。その後シベリウスは付随音楽を編集し、演奏会用の序曲および今日最も演奏される機会の多い3曲からなる組曲を構成しました。

### 第1曲：間奏曲

劇の第3景で、リトアニアの王女が、カレリア地方の住民から税を取り立てに来る場面で演奏される曲です。ゆったりとした行進曲で、ほぼ1つの主題の繰り返しによります。行進が次第に近づき目の前を過ぎてから遠ざかる様子が示されています。

### 第2曲：バラード

劇の第4景で、ヴィープリの城主たちの前で吟遊詩人が歌う場面の音楽です。これも1つの主題を扱っており、中世の古風なもの悲しい趣があります。

### 第3曲：行進曲風に

劇の第5景で、16世紀末を扱った場面の音楽です。2つの主題からなる行進曲で開放的に曲を締めくくります。

## ●休憩●

## ■シベリウス／アンダンテ・フェスティーフォ

1922年冬、セイネトサロ製作所という会社の25周年記念式典のために、祝祭カンタータの作曲を依頼されましたが、シベリウスはささやかな弦楽四重奏曲「アンダンテ・フェスティーフォ」を創作しました。カンタータに仕立てなかった理由は不明ですが、短編ながらも祝祭行事にふさわしい音楽に仕上がりました。

その後の経過に、世界的に有名であったシベリウスならではのエピソードがあります。アメリカの音楽評論家の発案で、シベリウスからの新年祝賀メッセージをアメリカでラジオ生中継す

る提案がありました。シベリウスは快諾し「アンダンテ・フェスティーフォ」の演奏により応じることとし、1939年1月1日に作曲者自身の指揮でアメリカに生放送されました。演奏にあたりシベリウスは弦楽四重奏曲を弦楽合奏版に改編しています。今回の演奏は、より荘厳な響きを持つ弦楽合奏版によります。

曲は透きとおった天空に大きな弧を描くような朗々とした主題で開始します。暖かさとしみじみ内側に秘めつつ多彩な陰影を加え、最後は力強いアーメン終止で結ばれます。

## ■シベリウス／交響曲第5番 変ホ長調 作品82

シベリウスは1914年5月にアメリカを訪問して大歓迎を受けました。これに気を良くした彼は再度の訪米を考えましたが、同年夏に第一次世界大戦が勃発したため断念します。加えて、戦争の弊害で自身の作品を扱っているドイツの出版社からの収入が途絶え、厳しい生活を強いられるようになります。しかしながら、当時のシベリウスの日記には、戦争への不安と共に、困難を超えて大きな仕事を成し遂げたいという強い意思が表明されています。

交響曲の着想は1914年10月であり、シベリウスは北欧の自然から得た感動を、そのまま作品へ投射することに心を砕きました。完成間近の1915年4月21日の日記には次のような記述があります。「今日、11時10分前に16羽の白鳥を見た。大いなる感動！神よ、なんとという美しさだろう！白鳥は長い間私の頭上を舞い、輝くりぼんのように太陽の靄の中へ消えていった。」シベリウスはこのような感動を嘯みしめるように、音を紡いでいったと考えられます。

初演は1915年12月8日に、自身の50歳の誕生日の記念行事で行われました。結果は大成功で観客や評論家から絶賛されましたが、シベリウスは満足せず、後に2回も大幅な改定を行っています。最終稿は1919年秋に完成し、自身の指揮により披露されました。

### 第1楽章

「テンポ・モルト・モデラート」から転換し「アレグロ・モデラート」「ビバーチェ・モルト」「プレスト」とつながっており、一般的な交響曲でのスケルツォ楽章にあたる部分が結合し、1つの楽章を形成しています。ホルンが奏する冒頭の旋律が第1主題を提示し、ついで弦楽器のトレモロを背景に第2主題が木管楽器で示され、そしてトランペットによる輝かしい第3主題が現れます。この3主題を核として、第1楽章は壮大に形成されます。

### 第2楽章

弦楽器のピチカートによりどこか沈痛な表情をみせますが、簡素な主題が中心になって、楽器の配合とテンポによって表情を変えながら繰り広げられていきます。ひとつの主題による変奏曲です。

### 第3楽章

弦楽器のトレモロの後にピオラが奏する第1主題と、ホルンにより鐘を鳴らすような音型で示される第2主題を中心に運ばれてゆきます。主題は途中で厳粛さを帯びながらも、突破口を見出すようにしてフィナーレへと向かいます。鳴り響くトランペットは、先の日記の記述にあった16羽の白鳥の姿を表現したものとされています。



# 出演者

\*は賛助出演ならびに団友

## コンサートマスター

三溝 健一

## 第1ヴァイオリン

上野 圭子  
小菅 宏造  
小森 裕  
佐藤 さやか  
橋本 士郎  
平原 良晃  
山川 美沙紀  
横田 幸恵  
岩田 貴守\*  
折原 裕子\*  
田中 陽子\*

## 第2ヴァイオリン

青木 由美子  
泉 紀子  
大山 美乃子  
高松 理恵  
田中 教生  
藤原 満  
山田 美幸  
石津 忠\*  
藤田 尚\*

## ヴィオラ

岩下 律子  
清水 哉子  
古海 法雲  
渡辺 みほ  
大庫 るい\*  
長尾 幸\*  
宮入 徹\*  
横田 裕祐\*

## チェロ

稲井 進  
大坪 美樹  
笠野 恭子  
河合 礼  
佐藤 慎悟  
柁木 文子  
村治 美代  
瀬高 伸一郎\*

## コントラバス

秋山 雅央  
岩岡 沙織  
吉崎 須賀子  
渡辺 光  
松原 直之\*  
山崎 康正\*

## フルート

齊藤 孝久  
福田 幸久  
丸山 恵理  
森澤 拓

## オーボエ

羽賀 純子  
橋本 直子  
皆川 正弘  
皆川 未央

## クラリネット

齊藤 直美  
鈴木 和久  
富田 洋加

## ファゴット

福島 梓  
宮口 弘明  
金井 典代

## ホルン

飯田 美由紀  
笹川 修一  
島岡 美沙  
須田 孝義  
森 真人  
綿貫 英紀

## トランペット

菅野 徳嗣  
水澤 学  
西山 岳志\*

## トロンボーン

笠野 光雄  
西山 瑤  
松田 彰英

## テューバ

若井 一也\*

## パーカッション

稲田 善智  
小浜 史頌  
加藤 正之  
小島 章子\*

# 楽団紹介

1972年(昭和47年)結成。毎年2回開催している定期演奏会、各方面からの依頼演奏や行事への参加を通じて、広く市民に愛されています。

上越市を中心に、県内各地から音楽を愛する仲間が集い、質と達成度の高い音楽を表現すべく、様々な楽曲に挑戦しています。

ことに近年は上越市ゆかりの方との共演を果たしています。2012年、大越さとみ氏を招き、白鳥の湖(ナレーション付)を、翌2013年は牧田由起氏を招き、ブルッフのヴァイオリン協奏曲を披露、好評を博しました。

現在は指揮者に上越教育大学の長谷川正規氏、コンサートマスターに三溝健一氏を迎え、充実した活動を展開しています。



## ■ 次回演奏会のご案内 ■

### 第76回定期演奏会

日時：2016年3月13日(日)14:00 開演  
会場：上越文化会館 大ホール

ベートーヴェン / 献堂式序曲  
グリーグ / ノルウェー舞曲  
ドヴォルザーク / 交響曲第8番

## ■ 団員募集のご案内 ■

上越交響楽団では常時団員を募集しております。  
募集パート等、詳しくはお問合せ下さい。

素敵で愉快な仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。  
団員一同、心より歓迎いたします。

Mail : mako2034@joetsu.ne.jp  
Tel : 090-1606-1254(茨木)  
ホームページ :  
<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~jsovn/>

